

もみじ

—広島山岳・スポーツクライミング連盟会報—



一般社団法人 広島山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail : hgakuren@lime.ocn.ne.jp

URL : <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 県高校総体 (6/3~4 七国見山・野呂山) 報告
2. クライミングスクール (6/4 三倉岳 ABC フェイス 周辺) 報告
3. 中国地区自然保護研修会 (5/20~21 鳥取県鏡ヶ成・大山) 報告
4. HIROSHIMA ベルコンプ 2023 第 1 戦 (6/24 CERO) 報告
5. ありんこチーム活動 (6/4 米山~大応山) 報告
6. 岳連短信 (寄贈御礼、7~8 月の行事予定)

1. 県高校総体 (登山) 報告

(県高体連登山部事務局長 内藤 弘泰)

令和 5 年度 第 76 回広島県高等学校総合体育大会 (登山) は、6 月 3 日 (土) から 4 日 (日) にかけて、瀬戸内海に浮かぶ上蒲刈島 (呉市) にて、インターハイに向けて広島県代表を決める大会を行いました。

(選手参加 11 校, 157 名)

台風 2 号の接近で、数日前までは荒天対策の検討に必死になっていましたが、逆に当日は熱中症が心配されるほどの快晴でした。

1 日目は、上蒲刈島の七国見山に登り、県民の浜に宿泊し、2 日目の朝、全員でバスに乗って安芸灘大橋を渡って野呂山の東側へ移動。野呂山山頂の弘法寺へむけてタイムレースを行いました。弘法寺からは川尻へ下山し、川尻まちづくりセンターが最終ゴールでした。

昨年度インターハイで全国制覇を果たした広島学院と、修道との激戦は 0.1 点差で広島学院に軍配がありました。全国 2 連覇にむけて、エールを送りたい

と思います。

運営役員が体調不良などのアクシデントもありましたが、コロナ禍以来、数年ぶりのテント泊を伴う大会を無事に終えることができ安堵しています。

大会結果

<男子一部>

- 1 広島学院 99.0
- 2 修道 98.9
- 3 安古市 84.9
- 4 基町 77.9
- 5 廿日市 72.4
- 6 五日市 68.6

<男子二部>

- 1 広島学院 B1 98.4
- 2 修道 B2 95.8
- 3 修道 B1 94.9

<女子一部>

- 1 ノートルダム清心 96.0
- 2 五日市 78.9
- 3 基町 66.1
- 4 県立広島 61.7

<女子二部>

- 1 ノートルダム清心 E1 89.9
- 2 ノートルダム清心 E2 79.7
- 3 五日市 E1 61.9

上位大会のインターハイへは (一部) 優勝の

男子 広島学院

女子 ノートルダム清心

が会場。

【選手感想文】

『負けられない戦い』

(広島学院高校 2 年 一丁畑 零)

2 月、県総体の A 隊が決まった。CL は一丁畑、SL は高 3 の的場先輩、M1 は岸田、M2 は高 1 の奈良定となった。これは、他の A 隊になりたかった高 1、高 2、そして高 3 で勉強などが忙しくなるにも関わらず A 隊になってもらえることになった的場先輩のためにも、優勝をする以外の道はなかった。もう後戻りなど出来ない。覚悟は決まった。

それからというもの、朝は学校の裏山を登り、昼は設営の練習、休日には下見に行くという生活が始まった。そんな登山まみれの生活をしていると、あつという間に 6 月に入り、大会当日を迎えた。

僕は怖いほど緊張していなくて、むしろリラックスしているくらいだった。リラックスしすぎて失点しないように気をつけるのと同時に緊張でミスをする事はないという自信を持って大会に臨んだ。1 日目は、七国見山を登り、その後ペーパーテスト、炊事審査という流れだった。1 日目の山行は怪我をしないように、読図でミスをしないように、2 日目の野呂山のタイムレースのために体力温存するという事に気をつければ良いので特に問題なく終わることが出来た。その後のペーパーテスト、炊事審査もみんないい調子で終わることができ、1 日目の審査は終わった。1 日目の就寝前、的場先輩が 2 日目のタイムレースについてこんなことを言った。「タイムレースの時の調子って 2 種類あるんよ。緊張とかで上手く力が発揮できずにそれが負の連鎖でどんどんペースが落ちていくのと、アドレナリンが出てすごい良いタイムが出る時。今のみんなはいけそうな雰囲気が出てる」

これを言われて、自分自身とてもやる気が出て、明日やってやろうという気持ちになった。

そして迎えた 2 日目。ついにこの日がきたかと思い、朝の準備をし始めた。集合時間の 6 時、全てのチームが集まり、まず 1 日目の審査物が返却された。全て満点だった。個人的に満点を取るのが難しい天気図で高 1 の奈良定が満点を取っていたのはとても嬉しかった。そんなこともあって、みんな変な力も入らず、雰囲気

も良かった。その後バス移動を終え、ついにタイムレースが始まろうとしていた。始まる直前まで、「良いタイムを出せるように頑張るぞ、他の学校に絶対勝つぞ」と頭の中で反芻し集中力を高めていた。

そして、ついにタイムレースが始まった。ペースは予定よりも早いペースで行けていて、読図もしっかり出来ていた。仁王門が見えてきて、「もうだいぶきた、最後までペースを落とさずいくぞ」と気合が入った。仁王門をくぐり、階段をある程度登ったところで岸田がキツくなり、一旦水を飲ませた。そして、僕が岸田のサポートをしながら登って行く形になり、少し先の的場先輩と奈良定の 2 人がいるという状況になった。そこから、僕は岸田を後ろから押したりしながら出来るだけタイムを縮めるよう努めた。しかし、ゴールに近づくにつれ、岸田がよろけたり、倒れそうになったりした。その時はただつまずいてしまっただけなのかと思った。ゴールまでのラスト 7、8m で岸田は倒れて完全に立てなくなってしまった。何度か立たせようとしたがだめだった。そこに的場先輩がきて、僕は岸田のザックを、的場先輩は岸田を背負う形でなんとかゴールした。結果としては、修道の A 隊に 30 秒差で勝つことが出来たので安心した。ゴール後、岸田は意識はあったが、立てそうにない様子でかなりキツそうだった。僕はもう大会のことより岸田の体調が大丈夫かどうかの方を気にするまでになっていた、水を首や頭にかけ、OS-1 を飲ませることで 20 分ほどでなんとか歩けるようになった。岸田の荷物の一部を他の 3 人で分担して持ち、なんとか特 G から出発することが出来た。タイムレースが終わって 30、40 分ほどたった頃には完全回復したので、安心した。読図でミスをしないように気をつけていき、無事ゴールをすることができた。

この時点で、僕は読図で失点していなければ優勝、満点さえもいけると思っていた。閉会式まで 20 分を切った頃、2 日目の審査物が返された。まず、記録書などといったものが返された。失点はない。残すは読図だけ。満点を取れていることをひたすら願った。

結果は 1ヶ所落としていた。読図は 1ヶ所で 1点もある。登山大会での 1点はかなりでかい。これで終わ

りかと絶望した。そんな中で閉会式が始まった。

まず、講評があり、次に男子 A 隊の成績発表があった。6 位校から順位が言われていく。僕は正直もうだめだと思っていた。しかし、もしかしたらというのも少し願っていた。そして、

「第 1 位、99.0 点、広島学院高校」

僕は全身に稲妻が走ったような感覚がした。まだ大会に出れる。そう思うととても嬉しかった。思えば、あつという間の 4 ヶ月だった。しかし、いろんな面で成長できる 4 ヶ月だった。インターハイでは的場先輩に代わって、別の人が入る。周りのたくさんの人のおかげで掴めた優勝。インターハイでは、悔いのないよう戦いたい。

『県総体を終えて』

(広島学院高校 3 年 的場 正純)

まず、今まで指導して下さった先生方、先輩方、そして支えてくれた家族、同級生の仲間、応援して下さった方々に感謝したい。

今振り返ってみると、今回の県総体は、非常に楽しかったが、精神的な面で非常に疲れた大会であった。

一つ上と二つ上の先輩を見て感じてはいたが、高三で大会に出るといのは非常に大変なことだった。周囲の友達には部活をやめた人も多く、普通の学校生活では、休憩時間も勉強をする人が多かった。一方で私は、毎日朝練に出て、週末は下見に行っていたため、数学や物理の予習ができずに授業を受けることも多く、焦りを感じた。それでも折れることなく練習を続けることができたのは、話し相手になってくれた A 隊や B1 隊の後輩、そして、同学年で B1 の千葉のおかげであると強く感じている。

後輩たちは、辛いときもあっただろうが、文句も言わずに私の後ろを必死について登ってきてくれてうれしかった。後輩たちには是非もっと速く登れるようになって欲しいと思う。というのも、登山において、努力と練習は決して裏切らないと私は信じているからだ。

緊張は全くしなかった。むしろ、大会一週間前は県総体が楽しみ過ぎて、待ちきれなかったほどだ。やっ

と、全ての審査がある大会に出ることができたのだ。

この大会で一番記憶に残っているのは、2 日目の特 G での出来事だろう。あのゴールは今思い返しても劇的であったし、いろいろな人がカメラに収めているようだった。岸田もあの状況の中で、よくあそこまで登ってきてくれたと感心するばかりだ。最後に延々と階段が続く登りだけだっただけに、仲間と力を合わせて登り切ったときの達成感は大きかった。

閉会式前に審査物が帰ってきたときは、読図を一つ落としているのを見て、本当に終わったと思った。なので、成績発表の時に一位だと知ったときは猛烈にうれしかったし、とても安堵した。

悔いはない。私はこの県総体で引退だ。これから先、もし私の勉強の結果が悪かったとしても、あの時県総体に出たから…というようなことは決して言うつもりは無い。ただ、一つ心残りな事があるとすれば、満点未遂をしてしまったことであろう。去年のインターハイもそうであったが、私には読図審査で満点を取れるような技術はなかったのかもしれない。後輩がいつの日か読図の分野を克服し、100 点で優勝を果たすことを願っている。

後輩よ、インターハイ楽しんでこい！

(広島学院高校 1 年 奈良定 克拓)

僕にとって今回の県総体が初めての登山大会でした。憧れだった A 隊になれた時とても嬉しかったのと同時に勝たなくてはという使命感を感じたことを今でも覚えています。実際に県総体が近づいてくるとやはり不安や緊張が大きくなってきました。

おそらく先輩方がタイムレースや読図についての話を書くと思うので僕からは天気図について書こうと思います。

登山部の先輩方から大会の天気図の試験で緊張した、という話をよく聞いていたので大会前からかなり緊張していました。ですが天気図の試験会場に着いた時には試験に対する過剰な緊張がフッと軽くなり適度な緊張度合で試験を受けることができました。試験を受けた後は結果を早く知りたいようだけれど結果が怖いような、何とも言えない気持ちになりました。

翌朝、自分の天気図が満点だと知り安堵しました。そのとき先輩方も喜んでくれたのもとても嬉しかったです。日々天気図の添削をしてくださった有田先輩と模擬問題を何回も作ってくださった千葉先輩のおかげでこの結果を取めることができたのだと思います。

今回の県総体ではA隊の先輩方に頼っていた部分がかかなり多くなっていました。体力面において特にそのことを感じました。次は自分が人を引っ張れる存在になれるよう努力し続けようと思います。

そしてまずはインターハイです。初めての北海道がまさかインターハイだとは思ってもいませんでした。北海道の山を楽しみながら気を抜かずにインターハイ二連覇を目指します。



1日目登山知識テストの様子



1日目開会式 (県民の浜)



2日目朝の幕営地 (県民の浜)



1日目登山行動 (七国見山からの下り)



2日目閉会式 (女子表彰チーム)

2. クライミングスクール報告

(指導部長 森本 覚)

第3回 6/4(日)

山城：三倉岳 ABC フェイス周辺

人数：21名 (スタッフ含)

受講生 3 人一組で旧 A フェイスノーマル.7 B フェイスノーマル.9 じゃじゃ丸.8 ポン太.6 の 4 本でトップロープで確保したリードクライミングとビレイの講習と松下さんと立ち木を使つてのラッペルの講習を行いました。(指導部 塩田 徹)

【感想文】

『クライミングスクールを受講して』

(受講生 高田 正剛)

まったく進歩していないのではないかと呆れられるかもしれませんが、一昨年度、そして昨年度に続き、今年度、3 回目のクライミングスクールを受講することにしました。

登山教室のスタッフの方にクライミングスクールの受講について相談したときに、三倉の 5.9 を登ることができれば北アルプスのいわゆるクラシックルートに挑戦できるとのアドバイスがありましたので、最初は 5.9 を登れるようになることを目標とされていたのですが、過去 2 回のスクールでは 5.7 を登るのがやっとであったため、今年度は 5.8 を登れるようになることを目標としました。

4 月、第 1 回目。最初の課題は「早春賦右」5.9。昨年、A0 で何とか登ったルートです。スクールが終了してから全くクライミングの機会がなかったので、絶対に登ることができないと信じて岩にとりついていたのですが、終了点まで登ることができ、自分でもびっくりしてしまいました。

5 月、第 2 回目。課題は、「モアイクラック」下部、「ヒップクラック」下部、「ねずみ小僧」下部、「ラッキーネーブル」下部。「ヒップクラック」以外は昨年よりも高い位置まで登ることができました。

そして今回、第 3 回目の課題は、「旧 A フェイス・ノーマル」5.7、「B フェイス・ノーマル」5.9、「ゴンタ」、「じゃじゃ丸」5.8 と「松下さ

ん」での懸垂下降でした。

2 番目の「B フェイス・ノーマル」は、昨年度は全く歯がたたず、人生で初めて手の指がつるという経験をしたルートですが、今回は苦戦しながらも何とか完登することができました。

これに気をよくして、今日の課題は全部完登だと俄然やる気になったのですが、最後の「じゃじゃ丸」の取りつきの部分で右足の乗り込みができず、離陸できないまま時間切れに……

「ヒップクラック」と「じゃじゃ丸」は非常に不甲斐ない結果に終わり、とても残念でしたが、全体的にみれば昨年よりも登れるようになったと感じています。

作年まで全く登れなかったルートを登ることができるようになった理由は何か。「継続は力なり。」とか、「石の上にも 3 年」(まだ 3 年たっていませんが) など、いろいろ考えてみたのですが、理由はわかりませんでした。

ただ、自分の気持ちは、「5.9 は絶対に無理」ではなく、「頑張れば 5.9 でも何とかなるかもしれない。」に変わり始めています。

次回の講習からは、5.9 を登れるようになることをもう一度目標にし、頑張りたいと思います。

スタッフ及び受講生の皆様、よろしくお願いたします。

『第 3 回 クライミングスクール』

(受講生 高橋 和仁)

思い切って飛び込んでみたクライミングの世界、登山スキルの上達になればとの安易な考えは吹っ飛んでしまうほどの、想像をはるかに超える世界でした。

新品のハーネス、カラビナ、ATC、そしてずっと前に購入してお蔵入りしていたクライミングシューズを携えて参加した第 1 回、午後からの雨予報もあり実践岩登りが急ピッチで進行していきました。何をどうしていいかわからないまま、ビレイ、クライミングに恐る恐る挑戦。ほとんど足場、手掛かりがない場所を上がっていかねければならぬ、周りの皆さ

んはどんどん登るし、下で見ていると簡単そうに見えるけど、いざ自分が取りつくと身動きが取れない。

そして早くも第3回。スクールの進行は、まずは実地場所までのアプローチ(すでに汗だく)、身支度、スタッフの方がトップロープ、クイックドロ、カム等をセッティングして頂いている間に本日の講習内容の講義、実演、練習、そしてクライミング実践講習、後片付け、下山という大まかな流れがわかり、少しは落ち着いて参加できるようになりました。

今回の実践講習は前回までの2人ペアでのトップロープクライミングではなく、3人グループでのリードクライミングでした。基本はリードクライミングではあるものの、バックアップでトップロープでのビレイをするというものです。私たちの組は旧Aフェースノーマル、Bフェースノーマル、ポン太、じゃじゃ丸の順で進みました。

途中、松下さんの立ち木でトップロープの支点構築、セルフビレイ、ロープダウン、ラッペル、ロープ回収、束ねを行いました。第2回で初のラッペル実践を行っていたおかげで、落ち着いて降下開始できましたが、右手の握り、緩め、の力加減がぎこちなく、数をこなしていけないと上達しないなと感じました。

そして肝心のクライミングですが、最初の講義で習ったクイックドロへのリードロープのかけ方を繰り返しながら、途中手が疲れたら自分のクイックドロでセルフビレイし休憩することも教えて頂きながら登っていきます。リードロープを一発でカラビナに通すことはできず、手練ったロープを落としはまた手練る、を繰り返すなど、悪戦苦闘しながらの挑戦です。旧Aフェースノーマルは少しかぶっている壁を乗り越えられず敗退、Bフェースも壁横の岩に左足を乗せるところまでは進むもそこからは進めず敗退、ポン太は何とか最終到達点まで行けました。最後のじゃじゃ丸ですが、取りつきの壁でリードを逆向きに掛けやり直し、どっち側が正しいのか一瞬パニックになりました。そして、次の一步は右

足を大きく出して目視できない掛かりに預けながら、徐々に体重を右足に移して乗り込むのですが、これがなかなか上手くいきません。何度か失敗した後、バランスが良くなったところで、乗り込むときに膝を前に出すというアドバイスを頂き、じわじわと膝を出していくと乗り込むことができました。そこで満足したものの、「次！」と容赦ない声。数歩は上がるも、タイムオーバー、敗退です。

ビレイのロープさばきもまだぎこちなく、Vが多い常にZでと指導頂くも、何のことかピンとこなかったのですが、すぐにATCの右手側のロープの向きということがわかり、クライマーの命を預かっていることを肝に銘じ、常に意識し、自然にスムーズにさばけるよう練習を重ねていきたいと思います。

本スクールで感じているのは、スタッフの皆様は本当に丁寧に、そして、真剣に指導してくださり、また、スクール生の皆様もそれに答えるべく、指導して頂いたことを洩らさず吸収する気持ちで集中して取り組んでいるというところです。私も皆様に刺激をもらいながら成長できればと思います。未熟者ではありますが、スタッフの皆様、スクール生の皆様、引き続きよろしくお願いたします。

(写真提供 塩田)





3. 中国地区自然保護研修会報告

(研修会、現地視察、登山) (参与 福永 やす子)

コロナ禍で3年間繰り越しになっていた中国五県自然保護研修会が鳥取県山岳・スポーツクライミング協会主催で下記の要項であり、山田会長と福永、友人の三人で参加しました。

諸事情で報告が大変遅くなりましたが報告致します。

1. 期日：2023年5月20日～21日(日)
2. 会場：1日目 江府町大字御机字鏡ヶ成 休暇村奥大山、2日目 大山町大山 大山周辺
3. 主催：鳥取県山岳・スポーツクライミング協会
4. 参加費：14,000円
5. 持ち物：日帰り登山装備(手袋必携)、腕章
6. 宿泊：雪花荘 鳥取県西伯郡大山町大山40-3
7. 日程

【1日目】20日(土)

- 12:00～受付 休暇村奥大山1階
鳥取県日野郡江府町大字御机字鏡ヶ成709-1
*昼食は事前に済ませ、登山の準備をして受付
12:30～開会式 1階会議室
12:40～自然保護講演会「大山地域の自然と保護活動」
大山自然歴史館館長 矢田貝繁明氏
14:00～視察 鏡ヶ成湿原～擬宝珠山～『自然保護憲章発祥の地』石碑
17:00～大山寺に移動
19:00～夕食、懇親会

【2日目】21日(日)

- *登山
7:00～大山登山開始
10:30～縦走路三角点付近の植栽作業箇所の視察
12:00～下山開始
14:50 解散
*麓観察会
8:45～大山自然歴史館へ
9:00～大山自然観察会(大山寺周辺)
12:00～観察会終了後解散

比婆山スカイランリハーサルと重なり参加者はいつもの半分に満たない。緑井駅で山田車に同乗し鏡ヶ成休暇村奥大山へ。スムーズに進み濃霧の中早めに到着する。東広島からの友人は濃霧と初めての道で車中の食事を取りながら苦労してやっと間に合った。

大山自然歴史館館長・矢田貝繁明氏の大山を熟知した講演では、①鏡ヶ成の自然と自然保護活動：自然保護憲章発祥の地 湿原の復元作業 草原の草焼き ②大山登山と自然保護活動：昭和30年代の登山ブー

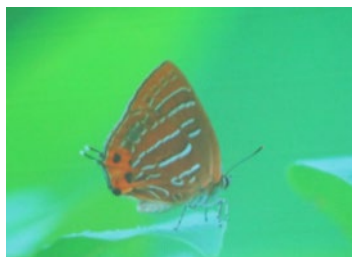
ムで頂上のごみ増大 (昭和 4 1 年ゴミ持ち帰り運動開始) (昭和 6 0 年頂上裸地化対策 一木一石運動開始) ③大山とその周辺の問題点: 数年後にシカによる食害が懸念される ④大山とその周辺の豊かな自然について: 四季を通じ自然が楽しめる スライドを使用してお話。

質疑応答では

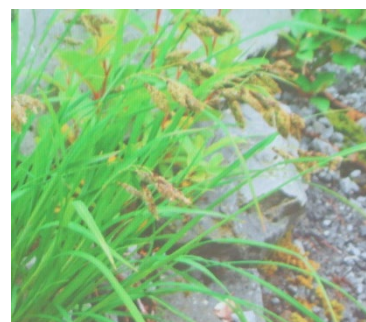
(質問) ダイセンキスミレ、ダイセンキャラボクと名の付く植物は固有種ですか?

(回答) 大山で初めて確認された植物、分布が大山付近にある植物は頭に「ダイセン」の名が冠されている。ミツバ、ミツバツツジ、キスミレ、クワガタ、ヒョウタンボク、スゲ等は日本固有種でダイセンキャラボクは特別天然記念物との事。

*大山の山頂付近で確認された固有種絶滅種に分類される①ウラミスジシジミ (別名: ダイセンシジミ): 卵で越冬しブナ科の新芽の食害があるらしい。



①ダイセンシジミ



②ダイセンアシボソスケ

講演後、矢田貝氏の案内で鏡ヶ成湿原を植物観察しながら一緒に歩いた。

興味深い 2 点を紹介します。

①日本タンポポと西洋タンポポの違いの見分け方: 総苞片の違い=日本タンポポ: 総苞片が閉じている。西洋タンポポ=総苞片が反りかえっている。

②春に新芽を食べるギボシと有毒のバイケイソウの葉の違い=ギボシの葉は葉柄があるがバイケイソウは葉柄が無い。



日本タンポポ(左) 西洋タンポポ(右)



ギボシ(上) バイケイソウ(下)

晴れ間も見えて来たので擬宝珠山へ登頂した。山頂周辺はカタクリの群生があり、すでに終わっていたが簡単に登れる山だし、麓はサンカヨウの群生も見られるので次回挑戦して見たい。

下山後、自然保護発祥の地記念碑で写真撮影。雪花荘での懇親会では各県のお酒が披露され山田会長の差し入れの古酒は評判だった。



擬宝珠山頂



『自然保護憲章発祥の地』石碑

翌朝、私と友人は大山登山の視察に参加。山田会長は麓周辺の観察会に参加されました。

自然保護の腕章を装着して各自集合する。7 時過ぎに豪円山駐車場を出発し、南光河原駐車場で一木一石運動の石を各自リュックに詰める。登山道入り口にはオドリコソウが迎えてくれて、新緑の山毛櫸林の中、夏道登山道を登ぼる。六合目の小屋を過ぎて急登が続く階段が足に堪える。弓ヶ浜や麓の景色を見ながら進み、ダイセンキャラボクが周りに茂げる整備された木道を登る。山頂小屋を通過し、今回のメイン：縦走路 1709.4m の三角点付近の植栽作業箇所の視察：雪山以外は入れないロープを越えて三角点へと進む。崩落が進む山頂稜線に少しでも崩落を避ける為の作業や山柳の植栽がされている。多くのボランティアの方々でザイルを使用しての植栽や整備の姿に頭が下がります。三角点で集合写真に納まり昼食を済ませて 14:00 過ぎ豪円山駐車場で解散しました。



大山山頂



稜線植栽状況

「5 月 21 日・大山自然観察会 (大山寺周辺)」報告 (会長 山田 雅昭)

半日で大山山頂往復の体力に自信のない人、昨夜の懇親会で飲みすぎてアルコールが抜けていない人、また、当日参加の一般の方々約 30 名で、9:00~12:00 大山寺周辺の自然観察会。「行程 2.5km、高低差約 150m」(大山自然歴史館~蓮浄院跡~圓流院~阿弥陀堂~利寿権現跡~利生水~金門~大山寺本堂)に参加した。当日も矢田貝館長と大山自然歴史館の職員の方が補助員として付き、その他、自然観察会専門のボランティア指導員(地形、地質、植物、動物(野鳥、昆虫)、歴史、人文)の 4 名が同行し、行程 10 分おきに花が咲いていればその花の説明、寺院では設立趣旨から始まり、歴史、その寺院に関わる人物紹介等。専門分野ごとに解説をしていただく豪華版観察会となった。観察会では、「あ〜、こういう形からの自然への入り方もあるのか?」と眼からうろこであった。これも、「国立公園大山」という魅力ある山を核とする行政活動のなせるわざかと思い、野外での自然活動を含む大山自然歴史館の利用者数を調べてみると昨年 2022 年は 38,000 人、10 年前の 2012 年は 66,600 人。10 年間で 43% の減であった。このことは、自然愛好家が極端に減った訳ではなく、職域、自治体(町内会)を含む団体活動から個人活動へシフトして行った結果ではないかと思われ、現在の広島岳連の現状と似ている・・・なんとも考えさせられる 2 日間であった。

今回企画してもらった鳥取県の皆さんありがとうございました。有意義な二日間でした。やはり中国五県の研修会は共有出来る山行で得る所が多く収穫があったので是非とも自然保護指導員の皆さん!!興味のある方は参加しましょう!来年は島根県が担当なので楽しみです。再来年は広島からなので今から企画を考えましょう!また、皆様のご協力をお願いします。

4. HIROSHIMA ベルコンプ 2023 第 1 戦 報告

(副会長兼スポーツクライミング部長 佐藤 建)

6 月 24 日 (土) HIROSHIMA ベルコンプ 2023 シリーズ第 1 戦をクライムセンターCERO にて開催しました。このコンペはボルダー競技をベルトコンベアー方式で登り、4 課題の成績で順位をつけるものです。ベルトコンベアー方式というのは、前の選手の登りを見ることはできず、自分の持ち時間 5 分間で何回のトライで登るかを競うものです。そのため選手が登る方法を見つけだしそれを表現できるかが問われる為、総合力の高さが求められます。この方式でコンペを年間 5 戦計画し、広島県及び中国地方を含めた選手のレベルアップをはかることを目的として開催しました。

また、それに付け加え、クライミングジムで楽しんでいる一般のお客様にも広く参加してもらいスポーツクライミングというスポーツを親しみ広めていけたらと考えています。

なお、この活動は広島県スポーツ協会のジュニア育成補助金を使わせていただいています。

参加者はユース D (小学 4 年生 5 年生) から一般の方まで県内外から 35 名の皆様に集まいただきました。成績は連盟 HP をご覧ください。

大会で重要なのが課題です。今回セッターに元日本代表・9A オーナーの茂垣敬太さんをお迎えし 2 日間かけて準備をしました。カテゴリーごとに課題を作り変え、登ってもらいました。選手の皆さんにとっては大変贅沢な設定でした。(通常クライミングジムで行うコンペでは他のホールドもたくさんついています。)

大会を目指す選手にとっては貴重な経験になった事と思います。また、一般のお客様も普段とは違った真剣な表情で課題に取り組んでいる姿が大変印象的でした。

更にこの大会ではスタッフの養成にも一役買っています。今回福山地区から 2 名の審判員の方に来ていただきお手伝いをしていただきました。スポーツクライミング競技を広めていこうとすると、大会運営ができるスタッフ・審判員が必要です。そのためにもこの大会が大切であると思います。

第 2 戦は 8 月 19 日 (土)、第 3 戦 10 月 21 日 (土)

クライムセンターCERO で開催予定です。第 4 戦、第 5 戦は広島県内のクライミングジム様に開催を募っています。多くの方の御参加をお待ちしています。



5. ありんこチーム活動報告

(顧問・個人会員 岡谷 良信)

参加者の感想文と写真です。

『ありんこチーム 6 月の山行』

(個人会員 神崎 直剛)

皆さんお久しぶりです、私は元気でぼちぼちとありんこチームに参加させてもらっています。

6 月 4 日 (日曜日) 晴れのち曇り

この度は、男性 4 人・女性 2 人で岩国の米山から大応山へ 400m 程の里山を 10 数キロの日帰り登山です。JR 藤生駅に集合し 8 時半登山開始しました。先行して歩いていた一人の女性登山者が登山口を見逃して別の道を行かれるところを呼び止めて、結局大応山まで同行することとなりました、里山の登山口って判りにくいですね。

最初のピーク米山からは岩国の街が展望できます。海岸沿いに米軍基地が見えます、基地マラソンを走られた方によると 1 週 20 キロもあるそうです。「毎年基地で子供の日に行われるブルーインパルスが良く見えそうですね。」と話したところ、その頃は黄砂がすごくて空港すら見えなかったそうです。西の島は大島でしょうか、橋は山影となり見ることはできません。

米山から大応山へはいくつかの展望地があり、南に岩国の街が見渡せます、北の方角は山が見えますが何という山かわかりません。途中マンガン採掘の跡があり、入り口は防空壕の様ですが真下に向かって深く掘られています、昭和 21 年に廃坑になったと書いてありました。

12 時、本日メインの大応山に到着、岩国市街を見ながらの昼食、7 人ぐらいなら広々スペースとベンチがあり、日差しもなく、心地よい時間を過ごしました。

我々はここで下山です。同行してきた女性登山者はこれから先の岩国城を目指されるそうです。ここから岩国城は、ここまでの道のりと同じくらいありそうですが、計画よりペースが速かったので今の時間なら充分行ける距離です、行ってみたいとは思いますが計画通りここでお別れです。

下山中、最後の展望地からは新たな景色、岩国城と

錦帯橋が見えました、次回は行ってみたいですね。

今回ハイペースでしたが、皆さん弱気をはくことなく無事に下山できました。帰りは JR 南岩国駅まで 3.5 キロの街歩きです、計画より 1 本早い電車で帰りました。

久しぶりに皆さんとお話ができ、とても楽しかったです、次回の山行が楽しみです。

**6. 岳連短信****1. 寄贈御礼**

6/21 三原山の会『筆影』No. 520 (7月号)

6/26 福山山岳会『会報』7月号

広島山稜会『峠通信』第768号 (6月号)

長野県山岳協会ニュース「やまなみ」No. 249

7/9 『中信高校山岳部かわらばん』725

2. 7~8月の行事予定

7/21~23 国体中国ブロック予選 (山口県)

編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○会員団体で会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。